

2022年度（令和4）年度事業報告

（2022年4月1日から2023年3月31日まで）

1. 会長報告

(1) 総会

- 1) 2022年度定時総会を2022年6月25日、福岡大学薬学部（福岡市）において開催した。代議員85名（電子的議決権の行使含む）参加のもと、2021年度収支決算書について審議し可決した。
- 2) 2023年2月15日に臨時総会を開催し、賛助会員除名処分について審議し可決した。

(2) 理事会、委員会等の開催

2022年度の会議は、WEB会議・メール審議の開催を含め、開催数を以下の通り示す。

理事会	4回
業務担当理事会	10回
幹事会	1回
編集委員会	37回
学術広報委員会	6回
国際交流委員会	1回
学会賞選考委員会	1回
トピックス等担当委員会	2回
将来構想検討委員会	1回
産学連携連絡会議	1回

2. 庶務担当理事報告

(1) 会員等の状況（2023年3月31日現在）

1) 会員数の内訳

正会員	609名
学生会員	51名
団体会員	105件
賛助会員	31社（49口）

2) 役員等

名誉会員	10名
理事	16名
監事	3名
幹事	26名
功労会員	60名
代議員	98名
賛助会員幹事	17名

- 3) 委員会等
- | | |
|------------|-----|
| 学術・広報委員 | 5名 |
| 国際交流委員 | 10名 |
| 編集委員 | 12名 |
| JNSV 編集委員 | 11名 |
| トピックス等担当委員 | 33名 |
| 学会賞選考委員 | 20名 |
| 将来構想検討委員会 | 11名 |

(2) 研究業績の表彰、奨励

1) 学会賞受賞者

石川 孝博 (島根大学学術研究院農生命科学系 教授)
「アスコルビン酸の抗酸化能と生合成に関する分子生理学的研究」

林 秀行 (大阪医科薬科大学医学部 教授)
「ビタミン B₆ 酵素の構造と機能に関する研究」

2) 奨励賞受賞者

栗原 晶子 (大阪府立大学総合リハビリテーション学類 栄養療法学専攻 准教授)
「脂溶性ビタミンの臨床的意義およびその適正量に関する研究」

増田 真志 (徳島大学大学院医歯薬学研究部 助教)
「骨ミネラル代謝異常における脂溶性ビタミンおよび生理活性脂質の病態生理学的役割の研究」

3) 企画・技術・活動賞受賞者

株式会社ファンケル 総合研究所 ヘルスサイエンス研究センター
松岡 小百合, 串岡 拓也, 高野 ひとみ, 由井 慶
「ビタミン D の有用性および充足に向けた取り組み」

4) 功績者表彰受賞者

清水 昌 (京都大学名誉教授)
虎谷 哲夫 (岡山大学名誉教授)
堀内 三郎 (岩手医科大学名誉教授)

5) 学生優秀発表賞

石田 哲也 (島根大学大学院)
「苔類ゼニゴケにおけるアスコルビン酸生合成経路とその調節機構の検証」

鈴木 花奈子 (中部大学大学院)
「植物のアスコルビン酸生合成の律速酵素 VTC2 の発現制御因子の同定」

東條 祥子 (大阪府立大学大学院)
「ビタミン E 栄養状態と上気道感染症との関係についての施設入居高齢者コホート研究」

長尾 知佳 (富山県大学大学院)
「ビタミン D 1 α 位水酸化酵素発現アデノウイルスベクターを用いた I 型くる病モデルラットの治療」

春本 恵里花 (徳島大学大学院)
「高齢マウスの腎臓におけるビタミン A 代謝関連遺伝子発現変化」

- 6) トピックス貢献賞
青 未空 (大阪樟蔭女子大学 健康栄養学部 講師)

3. 学術・広報担当理事報告

(1) 年次大会の開催

日本ビタミン学会第74回大会は、2022年6月25日から26日までの2日間、会場となった福岡大学薬学部（福岡市）にて3年ぶりに現地にて開催された。また、大会参加者数は、約200名であった。

大会委員長：高田 二郎（福岡大学薬学部 教授）

実行委員長：松永 和久（福岡大学薬学部 教授）

テーマ：『ビタミン製剤の過去・現在・未来 ―ビタミンを上手に使う―』

- ・学会賞等受賞講演 5 講演
- ・一般演題発表 72 題（内 学生発表 37 演題）
- ・基調講演

「健康寿命の延伸に向けた健康・栄養政策の動向について」

齋藤 陽子（厚生労働省健康局健康課栄養指導室）

- ・特別講演

『国民の健康増進に貢献してきたビタミン製剤』

「ヒトにおける抗酸化ビタミンの働き」

阿部 皓一（武蔵野大学薬学部 SSCI 研究所）

「ビタミン D の臨床応用の過去と未来：

リアルワールドデータベースの活用とドラッグリポジショニングの可能性」

斎藤 一史（中外製薬株式会社）

「CH₃-B₁₂(メコバラミン)の生理活性と臨床応用」

中西 憲幸（一般社団法人ソーシャルユニバーシティ）

『ビタミン・バイオフィクターを上手に使う』

「化粧品業界の市場とトレンドを絡めて～化粧品の過去・現在そして未来？～」

逢澤 起代美（株式会社 林原）

「様々な生理機能を有する含硫アミノ酸～タウリン～」

長濱 徹（大正製薬株式会社）

「ビタミンとサステナビリティ」

乾 泰地（DSM 株式会社）

- ・若手シンポジウム 【ビタミン研究の進歩と展開 ―ビタミン学の未来】

『酵素と必須微量元素』

「NAD 代謝による老化制御」

中川 崇（富山大学学術研究部）

「新奇マルチヘムセレンタンパク質が担う細菌の硫黄還元」

三原 久明（立命館大学生命科学部）

「基質が結合した酵素の立体構造から機能を考える」

宮原 郁子（大阪市立大学）

『脂溶性ビタミン』

「ビタミン D 受容体の転写機能を調節する新規ペプチドフォルダマーの開発」

三澤 隆史（国立医薬品食品衛生研究所）

「ビタミン A 貯蔵と輸送のメカニズム—病態制御および生物進化の視点から—」

目崎 喜弘（東京慈恵会医科大学臨床検査学講座）

「脂質メディエーター *N*-アシルエタノールアミンの生合成機構とその生理機能解析」

宇山 徹（香川大学医学部生体分子医学講座）

『動態と薬理作用』

「トコフェロールとトコトリエノールの細胞内取り込み量の違い

～アルブミンとの親和性により得られた知見～」

中富 毅（東北大学大学院農学研究科）

「ヒトを含む哺乳動物におけるゲラニルゲラノイン酸の生合成と肝発癌予防について」

田端 佑規（桐生大学医療保健学部）

「EGFR 阻害剤による皮膚障害の抑制を目指した光に

安定な活性型ビタミン K 誘導体の開発」

後藤 将太郎（福岡大学薬学部）

(2) 市民公開講座

2022 年度市民公開講座は、2022 年 11 月 12 日香川県高松市にある、かがわ国際会議場にて一般市民約 60 名参加のもと開催した。

実行委員長：上田 夏生（香川大学教授）

テーマ：「人生 100 年時代のビタミン学 ～子ども、若者から高齢者まで～」

講演内容：「骨粗鬆症予防のためのビタミン」

竹谷 豊（徳島大学教授）

「健康と若さを保つ脂溶性ビタミン」

藤原 葉子（お茶の水女子大学教授）

「熟年からはじまるビタミン B₁₂ 欠乏症とその予防法」

渡邊 文雄（鳥取大学教授）

(3) 共催・協賛・後援

(a) 第 80 回 日本栄養・食糧学会中部支部大会（講師派遣）

日時：2022 年 9 月 24 日（土）12:30～16:30

会場：名古屋外国語大学 名駅キャンパス（サテライト）

シンポジウム「学会誌の現状を共有し今後のあり方を考える」

(講演内容)

「Journal 出版の現状と課題と

Journal of Nutritional Science and Vitaminology」

JNSV 誌編集委員長 佐藤 匡央

「日本栄養・食糧学会誌の現状と課題」

日本栄養・食糧学会 学会誌前編集委員長 長岡 利

「日本農芸化学会『化学と生物』の現状と課題」

日本農芸化学会 和文誌編集委員長 藤原 葉子

「日本ビタミン学会『ビタミン』の現状と課題」

日本ビタミン学会 ビタミン誌編集委員長 吉村 徹

(b) 第 22 回国際栄養学会議 22nd IUNS-ICN2022 (共催シンポジウム)

日 時：2022 年 12 月 9 日 (金) 9：00～10：30

会 場：東京国際フォーラム

テーマ：生活習慣病予防のためのビタミンの新規機能の出現

Emergence of novel functions of vitamins for the prevention of life-style related diseases

座 長：白川 仁 (東北大学) 他

(講演内容)

「Anti-obesity and neuroprotective effects of tocotrienols」

福井 浩二 (芝浦工業大学)

「Role of vitamin K in health and disease」

Leon Schurgers (Maastricht University)

「Niacin metabolism and life-style related diseases」

福渡 努 (滋賀県立大学)

(c) ビタミン B 研究委員会シンポジウム (協賛)

日 時：2023 年 3 月 3 日 (金) 13:00～16:30

場 所：刈谷豊田総合病院 第 1・2 会議室

テーマ：『ビタミン B₁₂ をめぐる最近の話題』

(講演内容)

「薬物としてのビタミン B₁₂」

阿部 皓一 (三菱ケミカル株式会社 LS 事業部 アドバイザー)

「慢性腎臓病におけるシアノコバラミンの毒性」

小山 勝志 (刈谷豊田東病院 院長)

「ホモシステインと脳梗塞」

北川 一夫 (東京女子医科大学神経内科 教授)

「筋萎縮性側索硬化症のビタミン B₁₂ による治療」

和泉 唯信 (徳島大学大学院医歯薬学研究部 教授)

(d) (公社) ビタミン・バイオフィクター協会 市民公開講演会 (協賛)

日 時：2023 年 3 月 25 日 (土) 13：00～16：30

場 所：龍谷大学響都ホール (JR 京都駅 八条口前)

テーマ：健診・人間ドックの結果を正しく理解し、健康寿命を伸ばそう

(講演内容)

「健診・人間ドックを知って健康長生き」

南部 昭 (京都橘大学健康科学部 准教授)

「健診で予防できる病気、早期発見できる病気 ～健診センターを利用しよう～」

松浦 知和 (佐々木研究所附属湘南健診センター センター長)

「糖尿病とその対応」

今川 彰久（大阪医科薬科大学医学部 教授）

「がん薬物療法の最新の話題」

藤阪 保仁（大阪医科薬科大学医学部 教授）

「血管を守る：健診でわかる心血管系の老化リスク」

星賀 正明（大阪医科薬科大学医学部 教授）

「遠隔医療の取り組み」

巽 謙太（ニプロ株式会社総合研究所 主席研究員）

(4) ホームページによる広報活動

「Q&A」コーナー改訂や、新コーナー「研究紹介」設置などホームページ充実を図った。
また、質問などの問い合わせに対応を行った。

4. 編集担当理事報告

(1) 学会誌「ビタミン」の発行

2022年度は、96巻4号～97巻3号、計11冊を発行した。

掲載論文は、総合論文(7)、ノート(1)、ミニレビュー(11)、研究論文紹介(7)、トピックス(25)、随想他(3)、その他委員会の抄録等を掲載した。

(2) 英文誌「Journal of Nutritional Science and Vitaminology」(JNSV)の発行

公益社団法人日本栄養・食糧学会、FANSと共同編集し2022年度発行：Vol.68-2～Vol.69-1(6冊)をオンラインジャーナルにより発行した。

(3) 投稿規約を一部改訂した。

(4) 学会誌充実のため、新たな論文種別「症例報告」を設けた。

5. 会計担当理事報告

次の件について検討し、理事会に諮った。

(1) 2021（令和3）年度収支決算書類

(2) 2023（令和5）年度収支予算書類

(3) 日本ビタミン学会第74回大会会計報告書類

(4) 2022（令和4）年度市民公開講座会計報告書類

(5) 公益社団法人ビタミン・バイオフィクター協会へ活動事業委託費の申請

2022（令和4）年度事業報告 附属明細書

2022（令和4）年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。